

天敵利用普及のための情報蓄積・支援システム							
[要約] 日本における天敵利用普及のためのインフラ整備として、天敵の利用事例をカルテとして蓄積し、利用するための枠組み「天敵カルテ」を作った。システムには WWW から利用できる、増殖ベースを指向している、失敗事例を重視している等の特徴がある。							
農業研究センター・研究情報部・研究技術情報科、モデル開発研究室 中国農業試験場・地域基盤研究部・虫害研究室 大阪府立農林技術センター・環境部・病虫害 天敵カルテ企画幹事会 ( <a href="http://tenteki.cgk2.affrc.go.jp/kanjikai.html">http://tenteki.cgk2.affrc.go.jp/kanjikai.html</a> )						連絡先	0298-38-8975
部会名	情報研究 生産環境	専門	情報処理 作物虫害	対象	害虫	分類	普及

#### [ 背景・ねらい ]

日本における天敵利用は、様々な要因により天敵が十分な能力を発揮できていない等の理由のため、北ヨーロッパほど普及していない。天敵の利用事例をカルテとして効率的に収集・蓄積し、自分の条件に近い事例を参照できれば、天敵利用の普及が促進される。このためのシステム「天敵カルテ」を開発し、天敵の利用・普及をはかる。

#### [ 成果の内容・特徴 ]

1. 「天敵カルテ」は、農家・農業普及員・専門家を含みその相互間の連携をはかる枠組みの総体であり(図1)、運営は非営利団体である「天敵カルテ企画幹事会」が行う。
2. カルテの収集は、WWW ページ(図2)とカルテ記入用紙への記入によって行う。
3. カルテの質を保証するために、専門家によるレフェリー後に一般に提供する(図3)。
4. 天敵カルテは圃場カルテとしても利用でき、提供されたカルテに関して専門家からのアドバイスを受けることができる等、カルテ提供者にも利益がある。
5. 成功事例はもちろん、失敗事例も重要視し、積極的に収集・提供する。これにより、研究へのフィードバックも期待できる。
6. カルテは Web ブラウザを用いて検索することができる。
7. システムを利用して天敵を利用した事例もカルテとして登録することにより、カルテや利用事例が増える「増殖ベース」を指向している。
8. 文献や試験結果などの外部データベースとの連携も拡大していく。

#### [ 成果の活用面・留意点 ]

1. 多くの情報をユーザ間で共有することにより天敵利用の失敗の繰り返しが減り、天敵利用の普及に貢献できる。
2. 本システムは天敵カルテシステムの枠組みを提供しており、今後多くの天敵の利用事例をカルテとして蓄積していく必要がある。
3. カルテが増えれば増えるほど、利用価値が増大するシステムである。

[ 具体的データ ]

図 1(右) 「天敵カルテ」構成図 (農家・普及員・専門家を相互接続し、データの共有利用をはかるための、枠組み全体を意味している。現状では、天敵カルテデータベースの中身であるカルテが不足している。)

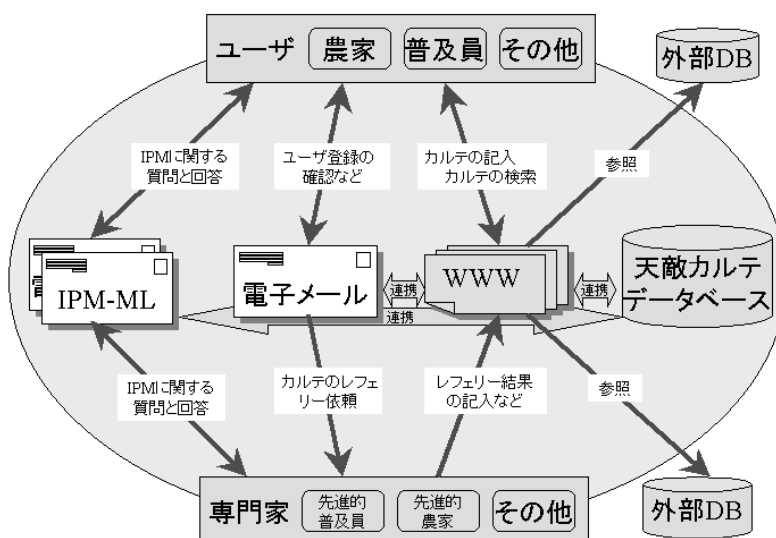


図 2 (下) 天敵カルテの入力ページ (記入用紙と同じ内容を WWW から記入できる。)

### カルテ登録の流れ

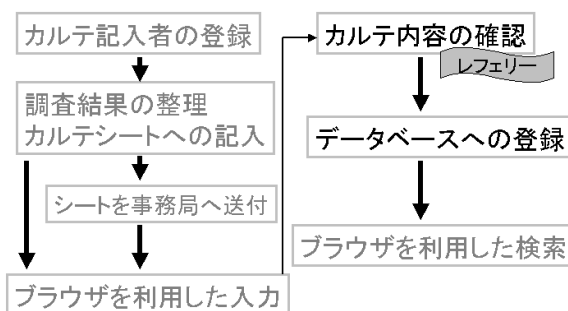


図 3 (上) カルテ登録の流れ(入力されたカルテは、入力ミス等を極力少なくするため、レフェリーが内容を確認してから一般へ提供される。)

[ その他 ]

研究課題名：天敵カルテシステムの開発

予算区分： 経常

研究期間： 平成 11 年度(平成 11 年 14 年)

研究担当者：木浦卓治，渡邊朋也 (農研センター)，三浦一芸(中国農試)，田中 寛 (大阪府農技術センター)，天敵カルテ企画幹事会 (http://tenteki.cgk2.affrc.go.jp/kanjikai.html)計(21 名)

発表論文等：天敵カルテシステム システムの紹介と増殖情報ベースとの関連，第 9 回天敵利用研究会要旨，32，1999

URL：<http://tenteki.cgk2.affrc.go.jp/> (天敵カルテホームページ)